

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ギターアドバンス	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験20年 2001年メジャーデビュー。その後紅白歌合戦にも出演。活動休止後よりサポートギタリストを始め、有名アーティストのサポートや、ほかにも多数のレコーディング、ツアーなどに参加。				
授業概要					
1年の実技で学んだことを、復習、応用していく。					
到達目標					
・コード(3和音と4和音)を完璧に弾きこなす・メジャー&マイナースケール、メジャー&マイナーペンタニックスケールを全てのキーで弾きこなす。・マスター譜のリズム譜、コードを見て弾きこなす・1年次で習得したスケールを使い、アドリブソロを弾きこなす・マスター譜のコードを見て、バックングが作れるようにする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	コード(3和音と4和音)の確認
【前期】 6～10回目	調号を理解し、エニーキーでメジャー&マイナースケールを弾くトレーニング
【前期】 11～15回目	調号を理解し、エニーキーでメジャー&マイナーペンタニックスケールを弾くトレーニング
【前期】 16～19回目	調号を理解し、エニーキーでメジャー&マイナーペンタニックスケールを混ぜてブルースを題材にアドリブギターを弾くトレーニング
【後期】 1～5回目	マスター譜のコードとリズム譜を見て、マスター譜を目で追いかけてながらコードバックングを弾くトレーニング
【後期】 6～10回目	マスター譜のコードを見て、コードに対応した色々なアプローチのバックングを弾くトレーニング
【後期】 11～15回目	マスター譜のコードを見て、コードに対応した色々なアプローチのソロプレイ(アドリブギター)を弾くトレーニング
【後期】 16～20回目	総合練習曲を題材に自分なりのアプローチによるバックングとソロプレイの両立
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	好きな曲をコピーする時に、目だけでコピーをしていませんか？実際に大事なものは「音」そのものをコピーする事。譜面から見えるのはほんの少しの情報です。逆に言えば譜面に色を添えるのはアナタのセンスなんです。少しずつでもトレーニングして行きましょう。
使用教科書	学内オリジナル教材「Guitar course Basic2」PDFを使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	作曲 & アレンジ	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験41年 アーティストのサポートキーボーディストや映像作品に使用される楽曲の作曲やアレンジなど担当。ポピュラー音楽やクラシック作品など、幅広く手掛ける。				
授業概要					
オリジナル楽曲の製作、作成後のアレンジ等、バンドやソロ活動において、自分の楽曲の幅を広げる為の授					
到達目標					
聴こえる音・使える音の枠を広げて豊かな発想力を培う。 Createするという習慣を身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	Tonic, Subdominant, Dominantの機能 代理コードを理解し実践的に効果的な使い方を学ぶ。
【前期】 6～10回目	楽曲に合うメロディーを付ける。
【前期】 11～15回目	エレキギターリフの製作
【前期】 16～19回目	オリジナルの製作を始める
【後期】 1～4回目	Minorの世界
【後期】 5～8回目	BlueNoteを身に付ける
【後期】 9～12回目	Major7, Tension, Passing Diminishedの世界
【後期】 13～17回目	対位法の楽曲にコードを付
【後期】 18～20回目	総譜 映像音楽への理解を深める。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ギターリストでも作曲・編曲したい、将来楽曲提供もやりたい！という学生が増えています。ギターリストのみならずクリエイターとして活躍している卒業生も多いので、是非この機会に覚えて沢山使って、活躍してくださいね。
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ミュージシャンセオリー	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験11年 自身のバンド活動を行いながら、サポートギターリストとしてプロの道へ。現在はアニソンアーティストなどのサポートギターリストとして活動中。				
授業概要					
世界を代表するギタリストをピックアップし、その人物の経歴や楽曲を調べ自分のギタースタイルへ役立てる					
到達目標					
ギタリストの歴史、テクニック発生の経緯、楽曲の歴史、各テクニックの知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～7回目	歴史的に有名なギタリストのギタースタイル確立に至る経緯と、その背景について
【前期】 8～14回目	歴史的に有名なギタリストの楽曲の音色作りやそれに関するギターテクニックについて
【前期】 15～20回目	歴史的に有名なギタリストの楽曲の作曲法やアレンジ法の解説
【後期】 1～5回目	歴史的に有名な楽曲の理論構成について
【後期】 6～10回目	歴史的に有名な楽曲の定番の音作りの研究や機材研究
【後期】 11～15回目	それらの楽曲を実際に弾き、そのテクニックの研究や感想を言い合い、議論を深める。
【後期】 16～20回目	今日までに先代のギターリストから学んだ歴史から自分の楽曲に活かす為の考察。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	昔のギターリストの話聞くのは現代の学生にとっては非常に辛く、面白くない部分も多いかもしれませんが。だが音楽は進化を繰り返してきたもので、進化前を理解できないと進化させていくことも難しくなります。毛嫌いせず、積極的に取り組みましょう。
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ギターテクニック講座	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	78回(156単位時間)	年間単位数	10単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験11年 自身のソロプロジェクトにおいて積極的に活動。またエンジニアとしても活動。MIXやマスタリング、作曲等も全て自主でこなし、数々の著名なヴォーカリストと共演。				
授業概要					
理想のギターサウンドに近づくための、必要とされる各種機材に関する講義。同時に講習として80年代～2000年代に流行した楽曲、講師のオリジナル楽曲を題材に技術習得をしていく。					
到達目標					
各種機材(ギター本体の知識を含む)の知識、使いこなすスキルの修得、それに付随する演奏知識と演奏技術の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～10回目	代表的なギターの構造、特徴等を理解した上で基礎テクニックの習得 ・ギター本体に使用されている木材の種類とボディ形状によるサウンドの違い ・ギターに使われているブリッジなどの各パーツの役割と調整方法
【前期】 11～20回目	ピック・アップの構造とタイプ別でのサウンドの特長を理解した上で基礎テクニックの継続 ・各ジャンルでよく使用される代表的なギターを紹介、その理由
【前期】 21～30回目	各種エフェクターのサウンドの特色とその使い方を理解した上で基礎テクニックの継続 ・各種コンパクトエフェクターのコントロール部説明、定番のセッティング
【前期】 31～40回目	各種マルチエフェクターの構造・特長などの紹介、使用するにあたってのメリット・デメリットを理解した上で基礎テクニックの継続 ・使用アンプごとのセッティングの違いとコツを代表的なアンプに繋いで音出し実演。
【後期】 1～12回目	代表的なアンプを使いこなせるようになる為の知識を理解した上で応用テクニックの習得 ・チューブ・アンプの使用上の注意点や、メーカー、使われている真空管の違いによる
【後期】 13～24回目	トランジスタ・アンプの使用上の注意点や、チューブアンプとの相違点を理解した上で応用テクニックの習得 ・アンプシュミレーターの使い方と音を作るときの注意点の説明、音づくりのコツ
【後期】 25～38回目	ステージでのパフォーマンス、立振る舞いの研究を理解した上で講義内実践演奏 ・過去に流行ったバンドや現代のトレンドのステージパフォーマンスを映像などで研究。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	プロの現場で使われる音の「定番」はどのような音なのか?を正しく理解し、フレーズが出来た時の達成感は今後の自分のアーティスト業やサポート業の糧となる達成感であり、その積み重ねが将来の自分を作るという事を念頭に置き、難しい程上達すると考えて頑張ってください。
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材

## 専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	分野別講座B	授業形態 / 必・選		講義		必修	
		年次	2年次				
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位		
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	<input checked="" type="checkbox"/>	非該当	<input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経歴23年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。						
<b>授業概要</b>							
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。							
<b>到達目標</b>							
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。							

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～5回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 6～8回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 9～10回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 1～2回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 3～5回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 6～8回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 9～10回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	サウンド・デザイナーⅡ	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験38年 様々なアーティストのサポート、アルバムレコーディングに参加および楽曲提供。また、声優やゲームのサウンドトラック制作に参加。				
授業概要					
様々な楽曲タイプごとに、ベストなギターアプローチの仕方を研究し、ギターコースのイベントに使用するオケの制作。 オリジナル楽曲の制作。					
到達目標					
コード進行のバリエーションを増やす。 ドラム、ベース等のリズムセクション制作することで、グルーブ感の修得					

授業計画・内容	
【前期】 1～7回目	ドラム・トラックの制作について ベース・トラックを制作について
【前期】 8～14回目	ギター以外の上物のトラックを制作について メロディー・トラックを制作について
【前期】 15～21回目	完成したオケにギターをレコーディングする。
【後期】 1～5回目	テーマやコンセプトを設定するにあたり、インスピレーションのについて。
【後期】 6～9回目	サウンドの方向性にあつたコード進行をメロディーについて。
【後期】 10～13回目	曲を生かす無駄のないギターアプローチを考え、録音、検証。
【後期】 14～17回目	聴いている人を飽きさせない曲構成の研究。
【後期】 18～19回目	1曲できた時点でクラスで発表会をし、お互いの曲に対してコメントを出し合い、今後の制作の参考とする。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	自分のオリジナル楽曲を製作するのは簡単な事ではありません。少しでもその手助けができればと思いながらレッスンをします。少しの小さな質問でもありましたら是非どうぞ。
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ギターパフォーマンス	授業形態 / 必・選	実習	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ギターコース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験14年 コンテストで審査員特別賞受賞後、2007年メジャーレーベルにてCDリリース。その後、自身のグループで多数の音楽フェスへ出演し、ドラマテーマ曲のギターを担当する等幅広く活動。近年、ゲーム音楽にも活動の幅を広げ、有名ゲームのサントラレコーディングに多数参加。			
授業概要				
ギターパフォーマンスクリニック(発表会)、学内ギターリストコンテストでの最良のパフォーマンスを行う為のレッスン。				
到達目標				
基礎演奏技術、知識、サウンドメイキングの修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	1年次に修得した基礎音楽理論を復習、発展させる。
【前期】 6～10回目	フィジカル強化の為のウォームアップエクササイズ
【前期】 11～16回目	コンテスト課題曲の中でブルース進行、ブルースの曲を練習。
【前期】 17～21回目	コンテスト課題曲の中で代表的なジャズ曲の練習。
【後期】 1～4回目	コンテスト課題曲の中で16ビート、ファンクビートの曲の練習。
【後期】 5～8回目	コンテスト課題曲の中で3拍子の曲、ワルツ曲の練習。
【後期】 9～12回目	コンテスト課題曲の中で8ビートの曲、ダウンピッキング曲の練習。
【後期】 13～16回目	ギターパフォーマンスクリニック(発表会)、学内ギターリストコンテストで取り扱う楽曲の練習。
【後期】 17～19回目	校内イベント、「ギターリストコンテスト」で取り扱う楽曲の練習や授業内発表会。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	プロギターリストが一番意識しているのは、「常に人に見られている事」に尽きます。それが仕事となり、それが自分のアピールポイントにもつながります。普段から見られている意識をしましょう。
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ギターベーシックⅡ	授業形態 / 必・選	実習	必修
		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ギターコース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験14年 イギリスの音楽大学へ留学、卒業後アメリカの音楽大学へ留学。帰国後はレコーディング／ライブ活動を開始する。2007年から自己のリーダーバンドにて活動し、現在はサポートギターリストとして活動。楽器機材メーカーモニターも務めている。			
授業概要				
1年次の教材である「Guitar course Basic1」の続編である「Guitar course Basic2」の修業をメインに、弾くことと理解する事の2つに焦点をあてた授業				
到達目標				
演奏技術、理論の構築等を発展させ、応用力、表現力、実演の能力や度胸までをも上達させる				

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	1年次の復習。 Diatonic Chord と Mode の学習。
【前期】 6～10回目	Guitar Performance Clinic の為の実践的実技、音作りやステージ上でのノウハウ 簡単な楽譜を読み書き、また演奏できるように指導。
【前期】 11～15回目	試験後の反省と、弱点の強化。
【前期】 16～20回目	読譜、理論、リズムの強化、循環コード進行、テンションコードについて
【後期】 1～4回目	レコードコピーや、楽譜からどう弾くかの読み取り
【後期】 5～8回目	Guitarist Contest挑戦の為の実践トレーニング
【後期】 9～12回目	本番ステージでの心得や問題の対処等のレクチャー。
【後期】 13～20回目	一年間の総まとめ。 1年間の反省や感想の作文提出。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ギターリストの形には色々あると思いますが、ギターベーシックⅡで学ぶべき事としてやはり大事なのは「弾くこと」「理解すること」の両立。どちらが欠けても納得する音にはなりません。がんばりましょう！
使用教科書	学内オリジナル教材「Guitar course Basic2」PDFを使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～2回目	学園祭準備①②
3回目～4回目	学園祭本番①②
5回目	学園祭片付け、原状回復
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択DAWⅡ	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験39年 在学中よりタレントのバックバンドでキーボードを担当。同時に自己活動で作詞、作曲を行う。数々の有名アーティストのサポート活動、楽曲提供を行う。				
授業概要					
DAWを使用してトラック製作する方法を学ぶ					
到達目標					
それぞれの音楽活動の幅や、音楽に対する興味を広げる					

授業計画・内容	
1～3回目	主にオーディオデータを使用した製作 Loopの貼り付けなどで、手軽に楽曲製作をしながらDAW操作の基礎を学ぶ
4～6回目	主にデータ入力を使用した製作 一からデータを打ち込んでいく方法で楽曲を作る
7～9回目	オーディオデータを録音する ヴォーカル、ギターなど、実際の演奏を録音してみる
10～12回目	オリジナルトラックの製作 ヴォーカル用のオケ、オリジナル曲のデモ、HipHopやEDMなどのトラック
13～16回目	簡単なMIX 2MIXやパラデータなどの作成
17～19回目	作品完成、及び提出
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽器の演奏ができずともDAWを用いて楽曲制作を行うことができる。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

## 専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択映像制作		授業形態 / 必・選	講義	選択
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験17年 大学在学中に劇団に在籍。舞台・映像作品への出演を重ねながら殺陣稽古を主催し、パフォーマンス集団の代表を務める。数々の映画やテレビ作品に出演している。				
授業概要					
iPadを用いた動画制作の方法を学び、課題テーマに沿った映像や自身でディレクションした映像の制作を行う。					
到達目標					
動画制作における機器の基本操作方法を習得する 自身のアイデアを撮影し、それを映像として完成させる					

授業計画・内容	
1～3回目	iPadおよびiMovieの基本操作について
4～6回目	複数の映像素材を使用したエディット練習
7～9回目	課題テーマに沿った映像作品の制作
10～12回目	課題テーマに沿った映像作品の授業内発表
13～16回目	自由課題による映像作品の制作
17～19回目	自由課題による映像作品の授業内発表
評価方法	授業内発表の評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	簡単なプロモーションムービーやミュージックビデオなど、動画制作の第一歩としての履修を前提とする。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択映画鑑賞	授業形態 / 必・選		講義 選択	
		年次	19回(38単位時間)	2年次	年間単位数
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験29年 1992年にCDデビュー。国内外でライブ活動を行い、テレビ・ラジオなどのメディアにも出演。著書「バンド・ボーカル読本」を発売し、近年はソロ活動やコラボバンドのリードヴォーカリストとしても活動中。				
授業概要					
エンタテインメントに関連する映像作品の鑑賞を通じて、脚本や撮影方法の工夫を学ぶ。					
到達目標					
教材として扱う映画作品の注視すべきポイントを知ったうえで鑑賞し、その手法を知る。感受性が豊かになることで、自身の芸能活動におけるクリエイティビティを広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	作品① 鑑賞とリアクションペーパーの提出
4～6回目	作品② 鑑賞とリアクションペーパーの提出
7回目	ディスカッション「名作映画が名作とされているのはなぜか」
8～10回目	作品③ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
11～13回目	作品④ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
14回目	ディスカッション「今まで鑑賞した映画作品の中で一番好きな作品とその理由」
15～17回目	作品⑤ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
18～19回目	作品⑥ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
評価方法	各作品におけるリアクションペーパーの評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	映画には音楽・演技・ダンスなど様々なエンタテインメントが使用されている。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択セルフスタイリング		授業形態 / 必・選	講義	選択
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴16年 スキンケア、メイクの基礎から応用、セルフスタイリングなどを指導。特殊メイク、エアブラシメイクを習得し、音楽の現場を主にミュージシャン、アーティスト、声優のヘアメイクを担当。撮影、イベント、舞台など、多方面で活躍している。				
授業概要					
自身の肌質や髪質を知り、各自に適したヘアスタイリングやメイクアップ方法を学ぶ。					
到達目標					
スキンケアやヘアケアの方法を習得する。 オーディションやイベント時のセルフスタイリング方法を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	肌ケア、肌トラブルについての講義を通して、スキンケア方法を学ぶ。
4～6回目	メイクアップの基礎知識とナチュラルメイクの方法を学ぶ。
7～9回目	基礎メイクをベースにした応用メイクを学ぶ。
10～12回目	ヘアアレンジ基礎として、ヘア道具やスタイリング剤の扱い方とヘアアレンジのベース作りを学ぶ。
13～16回目	基礎をベースにした応用ヘアアレンジ方法を学ぶ。
17～19回目	ヘア、メイク応用実技 自分に合ったバランスの良いメイク、ヘアスタイルを完成させる。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	我流のメイクやヘアアレンジを続けていると、肌や髪を痛める原因にもなりますので、この授業を機に正しい方法を身に付けてください。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

## 専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ボディメイキング	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験25年 フィットネスインストラクターとしてトレーニング指導を行う。また、モデルとして雑誌やCM、TV出演。スポーツ施設受託運営、出張パーソナルトレーニング、スポーツイベント企画を行う会社を運営も手掛ける。				
授業概要					
人間の身体の仕組みや、効率の良い筋力トレーニングや体幹トレーニングの方法を学ぶ。					
到達目標					
どのようなトレーニングがどのような効果を生むのかを知る。 各種トレーニングを習慣化する。					

授業計画・内容	
1～3回目	骨格・骨格筋の知識を取得&基本姿勢を作る為のホームトレーニングパターン
4～6回目	トレーニング原理・原則による実技(目標・目的に応じたトレーニング法)
7～9回目	体幹を意識した自重トレーニング理論・実技&ストレッチの基本～応用
10～12回目	セルフボディーケア(ゆるみ・こわばり調整)器具を使用するトレーニング方法
13～16回目	ダイエットに関する理論&器具を使ったサーキットトレーニング(脂肪燃焼メイン)
17～19回目	自重スーパーサーキット法を用いた高負荷トレーニング(心肺持久力・脂肪燃焼メイン)
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アーティスト・俳優・声優などの芸能活動における基礎となるトレーニング方法を教示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キャリアプログラム	授業形態 / 必・選		講義	選択
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴31年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のプレゼン、楽曲とコンテンツ(画像・動画等)を合わせた納品等を行う。				
授業概要					
Microsoft OfficeソフトやおよびAdobeのデザインソフトについて学ぶ					
到達目標					
コンピュータの仕組みや基本操作方法を習得する Microsoft OfficeおよびAdobeのデザインソフトの使用方法を習得する					

授業計画・内容	
1～5回目	Macの基本操作について
6～10回目	Microsoft Office (Word) の使用方法の習得と実践
11～15回目	Microsoft Office (Excel) の使用方法の習得と実践
16～19回目	IllustratorおよびPhotoshopの使用法の習得と実践
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	職種問わず、仕事をするにあたって最低限必須となる知識の習得を目指す。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブルⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。					
到達目標					
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。					

授業計画・内容	
1～3回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲に対する完成性を追求しながら、曲が持つ重要なポイントを見つける。</li> <li>・各パートの関連性を理解し、合奏するときの意識をお互いに持つ。</li> </ul>
4～6回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作る。</li> <li>・音符や記号を使い、各パートに必要な情報や変更を譜面に反映させる。</li> <li>・記録の重要性を理解し音源の録音をして置く。</li> </ul>
7～9回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞や譜面から得られる情報に加え、耳から得る音としての情報をしっかり取り入れる。</li> <li>・より歌いやすい、演奏しやすい、聴きやすいをテーマに、合奏を心がける。</li> </ul>
10～12回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にステージに立ち音響、照明を入れて演奏する。</li> <li>・セッティング図 / セットリスト / 音源 など、必要資料の存在と提出の仕方を知る。</li> </ul>
13～16回目	曲に対するの、素早い対応と理解力を向上させトータル的なプロデュースが出来る様になる。
17～19回目	表現方法の一つとし、人前に立ち演奏するところまでをパッケージとして考えられるようにする。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的には「1年アンサンブル」を延長した内容ですが、題材にする既成曲の音楽的な難易度が違ってきます。邦楽が主な題材ですが、洋楽を扱う可能性もあります。
使用教科書	1年次に習得した音楽理論や知識を元に、マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ヴォーカルⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験32年          ニューウェーブオペラで鮮烈なオペラデビューを飾る。バロックオペラから現代オペラ・オペレッタ・ミュージカルまで多くの作品に出演。狂言とオペラの東西文化融合舞台で活躍。コンサートでは高い身体能力を活かした華麗なステージとMC(語り)で好評を博し、他に第九や宗教曲のソリストとしても活躍している。</p>				
<b>授業概要</b>					
腹式発声・腹式呼吸・滑舌・共鳴・支え・喉の開き方、等を体得させ、歌唱表現に対し積極的になれる様導く。					
<b>到達目標</b>					
カラオケのレジャー感覚に留まらず、自己表現のとしての意識を持たせる。 もっとうまく歌いたいという向上心を持たせる。 1曲フルコーラスで歌えるようにする。					

授業計画・内容	
1～3回目	レベルチェックを行い、クラス分けをする。
4～6回目	発声①腹式呼吸と共鳴(からだのしくみの解説・呼吸法の実践)
7～9回目	発声②ロングトーンとその支え(横隔膜のコントロール 呼気吸気のバランス)
10～12回目	発声③リズムと滑舌・スタッカート(母音子音の口の形 8ビート16ビートそれぞれの感じ方)
13～16回目	発声④表現力を身に付ける(歌詞の解釈・音読 ステージング)
17～19回目	今までの復習 合同発表会(これまで身に付けたスキルを用いて実践する)
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	正しい発声方法を学ぶことで、体に負担をかけずに歌えるよう改善していきましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択エレキギターⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験14年 コンテストで審査員特別賞受賞後、2007年メジャーレーベルにてCDリリース。その後、自身のグループで多数の音楽フェスへ出演し、ドラマテーマ曲のギターを担当する等幅広く活動。近年、ゲーム音楽にも活動の幅を広げ、有名ゲームのサントラレコーディングに多数参加。</p>				
授業概要					
<p>ギターの演奏に必要な技術、知識を習得する。 作曲、制作志向の学生も多いので、音楽理論も併せてレッスンをしていく。</p>					
到達目標					
それぞれの用途に対応したギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	エレクトリックギターの楽器自体の仕組み、TAB譜の読み方や説明 オープンコードの習得
4～6回目	パワーコードの習得 チョーキング・ソロフレーズの習得
7～9回目	オクターブ奏法 サウンドメイキング講座
10～12回目	アコースティックギターの各部名称、TAB譜、コードダイアグラムなどの説明。 8ビートのコードストローク、コードチェンジの練習。
13～16回目	ダイアトニックコード(3声、4声)の説明。 主要なコード(メジャー、マイナー、セブンス)のローポジションでの練習。
17～19回目	フィンガースタイルを中心とした課題曲の練習。 アルペジオ、ツーフィンガースタイルの練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	エレキギターの演奏や音楽理論を通じて、アーティスト活動や作曲活動の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ベースⅡ		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験41年 有名アーティストのさまざまなステージ、レコーディング、サポートを行う。音楽雑誌にて、奏法解説などを連載。教則本もスラップ、5弦などの専門書など多数執筆。				
授業概要					
ベースの演奏に必要な技術、知識を習得する。 また、演奏を通してリズム感を培う。					
到達目標					
それぞれの用途に対応したベースの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	チューニングのやり方。(各弦を何の音階に合わせるか等) 指板の説明。 右手の2フィンガーピッキング。
4～6回目	左手のフォーム。ワンポジションで弾くメジャースケールの運指。 メジャースケールとマイナースケールの違いと左手のシェイプ。
7～9回目	4小節程度の簡単なコード進行でコードトーンを弾いてみる。 左手のフォームの強化(筋トレ)音符の説明とリズムトレーニング。
10～12回目	譜面の読み方、音階の説明。短い楽曲(リフモノ含む)をメトロノームと一緒に演奏。 ピック奏法。リズムトレーニング(シンコペーション等の特殊なリズムにも挑戦)
13～16回目	ピック奏法で短い楽曲(リフモノ含む)をメトロノームと一緒に演奏。 スラップ奏法等の特殊な奏法に挑戦。
17～19回目	簡単なリフ等を演奏。 楽曲演奏に挑戦。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	上達には個人差があるので焦らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ドラムⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験20年 2001年メジャーデビュー。TV音楽番組にレギュラー出演。その後、複数のグループのドラムを務め、日本全国にとどまらず海外でも活躍。現在はさまざまな現場での技術指導など、後進の育成も務める。				
授業概要					
基本的なリズムやグルーブを習得する。					
到達目標					
様々な分野で活動していく為にドラム演奏を通して表現力に幅を出せる様にする。					

授業計画・内容	
1～3回目	自己紹介、授業内容の説明。 到達点、目標をそれぞれ決めてもらう。
4～6回目	楽器の名称、簡単なドラム譜の読み方、各楽器の特徴、セッティング方法。 8ビート: 様々なフットワークを用い、8分音符を基調としたリズムパターン。
7～9回目	フィルイン: 8分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。 16ビート: 16分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	フィルインとしてアクセントストロークを8ビート、16ビートのリズムパターンに入れる。 シャッフル: リズムの取り方、イーヴンとバウンスの違い。
17～19回目	課題曲に合わせ演奏。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	日々のテクニックの積み重ねが必要な為、常日頃からの鍛錬を怠らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キーボードⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験23年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ダンスⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 専門学校卒業後、アーティストのバックダンサーを中心にキャリアをスタート。 現在ではアイドルグループのコレオグラファーとしても活躍。				
授業概要					
アイソレーションや簡単な振付など、基礎的なレッスンを中心に行う。					
到達目標					
ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に着ける。					

授業計画・内容	
1～3回目	基本的な身体の使い方をストレッチなどを通して学ぶ。
4～6回目	身体の細かい部分の動かし方を習得する。
7～9回目	音楽やリズムに合ったからの動かし方を学ぶ。
10～12回目	課題曲および振り付けを使用して練習する。
13～16回目	振り付けをいかした身体の魅せ方を習得する。
17～19回目	授業内発表会
評価方法	学期末の試験・発表会、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ダンスを通して身体を動かす楽しさやリズムをとることの大切さを学ぶ。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。